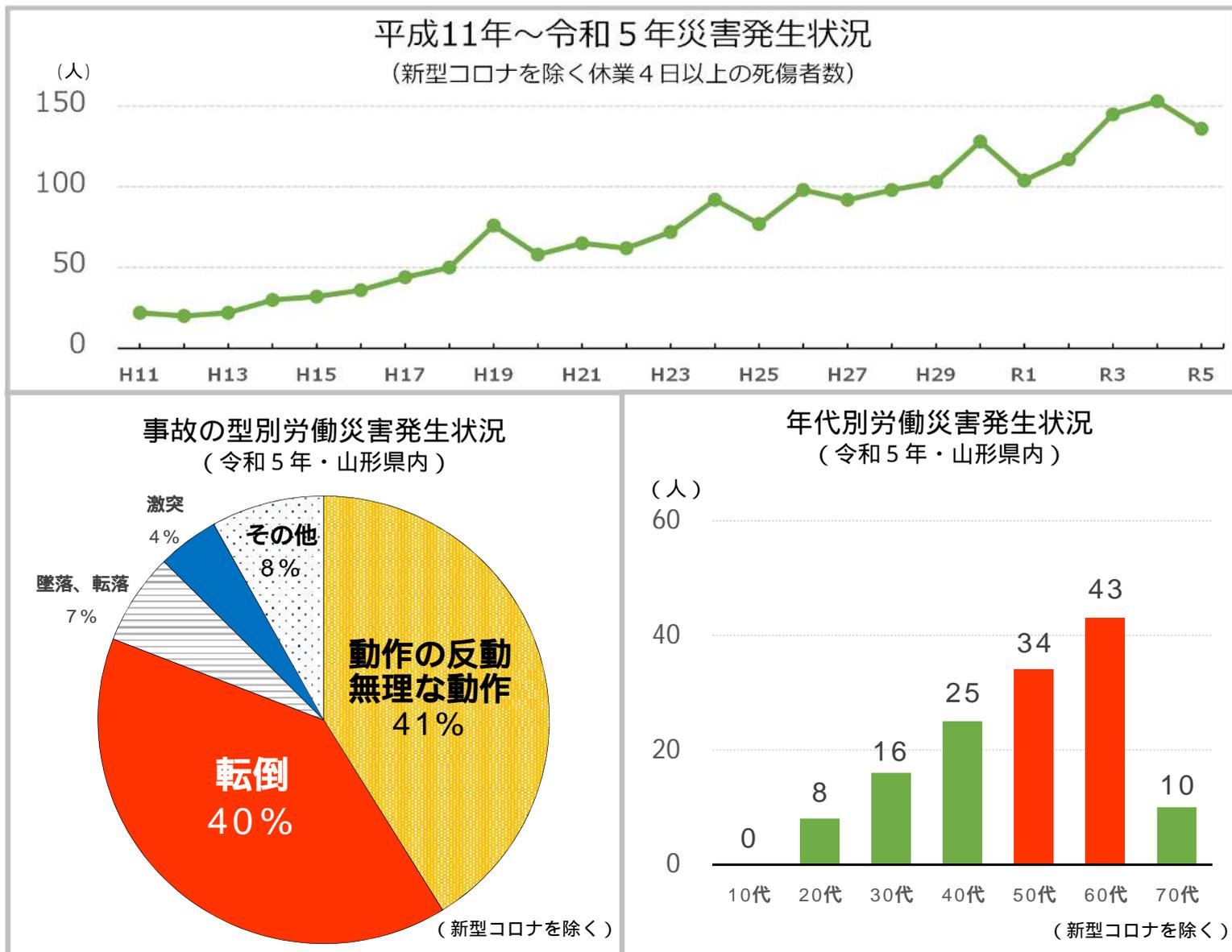


介護施設の労働災害を防止するために

介護施設の利用者に安全・安心・快適なサービスを提供するためには、そこで働く労働者に対する安全対策、健康確保対策が大変重要となります。

労働災害のない職場づくりは、労働者のみならず施設利用者の安全対策にも役立ち、人材確保にも有効です。

山形県内の介護施設における労働災害発生状況



転倒災害について



転倒災害は加齢によりリスクが高まります。体操やストレッチで筋力を維持しましょう。

転倒・腰痛予防！「いきいき健康体操」➡

転倒災害防止対策のポイント

介護施設では、**50歳代を中心に、転倒による骨折等**の労働災害が多く発生しています。そのため、事業者には労働者の転倒災害防止対策の拡充が求められています

介護施設における転倒災害の発生状況（休業4日以上）

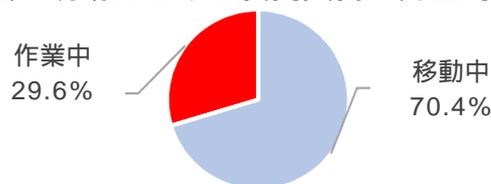
転倒時の類型（令和3年・全国）

つまずき	40%
滑り	31%
歩行中のバランス崩し・もつれ	5%
他人とぶつかった、他人に押された（被介護者の転倒も含む）	5%
荷物や介護作業によってバランスを崩した	4%
車椅子、台車の操作を失敗	2%
踏み外し	1%
立ち上がり時のバランス崩し	1%
貧血、意識消失等	1%
物・他人・動物をよけようとしてバランスを崩した	1%
障害物を乗り越えるのを失敗した	1%
環境によるバランス崩し	1%
その他の転び方	4%
不明	3%

転倒災害被災者の性別・年齢別内訳（令和3年～5年・山形県内）

	男性	女性	計
10代	0.2%	0.2%	0.5%
20代	2.7%	5.4%	8.1%
30代	4.5%	8.6%	13.1%
40代	5.0%	9.7%	14.7%
50代	5.4%	25.3%	30.8%
60代	5.2%	22.4%	27.6%
70代	1.6%	3.6%	5.2%
総計	24.7%	75.3%	100.0%

介護の現場における転倒災害の発生時点



転倒災害が起きているのは
移動のときだけではありません

転倒災害による負傷状況

- 骨折（65.9%）**
- 打撲（15.6%）
- 捻挫（14.0%）
- その他（4.5%）
（じん帯損傷、外傷性くも膜下出血 など）

主な原因と対策

次のページに記載のある安全対策のうち、（ ）については高年齢労働者の転倒災害防止として、中小企業事業者は「エイジフレンドリー補助金」（補助率1/2、上限100万円）を利用できます



「つまずき」等による転倒災害の原因と対策

- (なし) 何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒
▶ 転倒や怪我をしにくい身体づくりのための運動プログラム等の導入 ()
▶ 走らせない、急がせない仕組みづくり



職場3分
エクササイズ

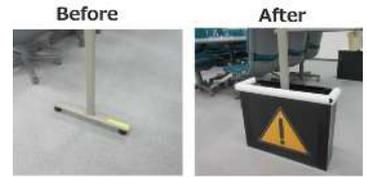


中央労働災害
防止協会
転倒予防セミナー

- 通路の段差につまずいて転倒
▶ 事業場内の通路の段差の解消 ()、「見える化」
▶ 送迎先・訪問先での段差等による転倒防止の注意喚起



- 設備、家具などに足を引っかけて転倒
▶ 設備、家具等の角の「見える化」



- 利用者の車椅子、シルバーカー、杖などにつまずいて転倒
▶ 介助の周辺動作のときも焦らせない
▶ 介助のあとは「一呼吸置いて」から別の作業へ



- 作業場や通路以外の障害物（車止めなど）につまずいて転倒
▶ 適切な通路の設定
▶ 敷地内駐車場の車止めの「見える化」



- コードなどにつまずいて転倒
▶ 労働者や利用者の転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に徹底させる



「滑り」による転倒災害の原因と対策

- 凍結した通路等で滑って転倒
▶ 従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マットを設置する ()



- 浴室等の水場で滑って転倒
▶ 防滑床材の導入、摩耗している場合は施工し直す ()
▶ 滑りにくい履き物を使用させる
▶ 脱衣所等隣接エリアまで濡れないよう処置



- こぼれていた水、洗剤、油等（人為的なもの）により滑って転倒
▶ 水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。
（清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してからの開放）



- 雨で濡れた通路等で滑って転倒
▶ 雨天時に滑りやすい敷地内の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う
▶ 送迎・訪問先での濡れた場所での転倒防止の注意喚起



転倒リスク・骨折リスク

- 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります
「転びの予防 体力チェック」「ロコチェック」をご覧ください
- 特に女性は加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します
対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう
- 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも
「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（内閣府ウェブサイト）



転びの予防
体力チェック

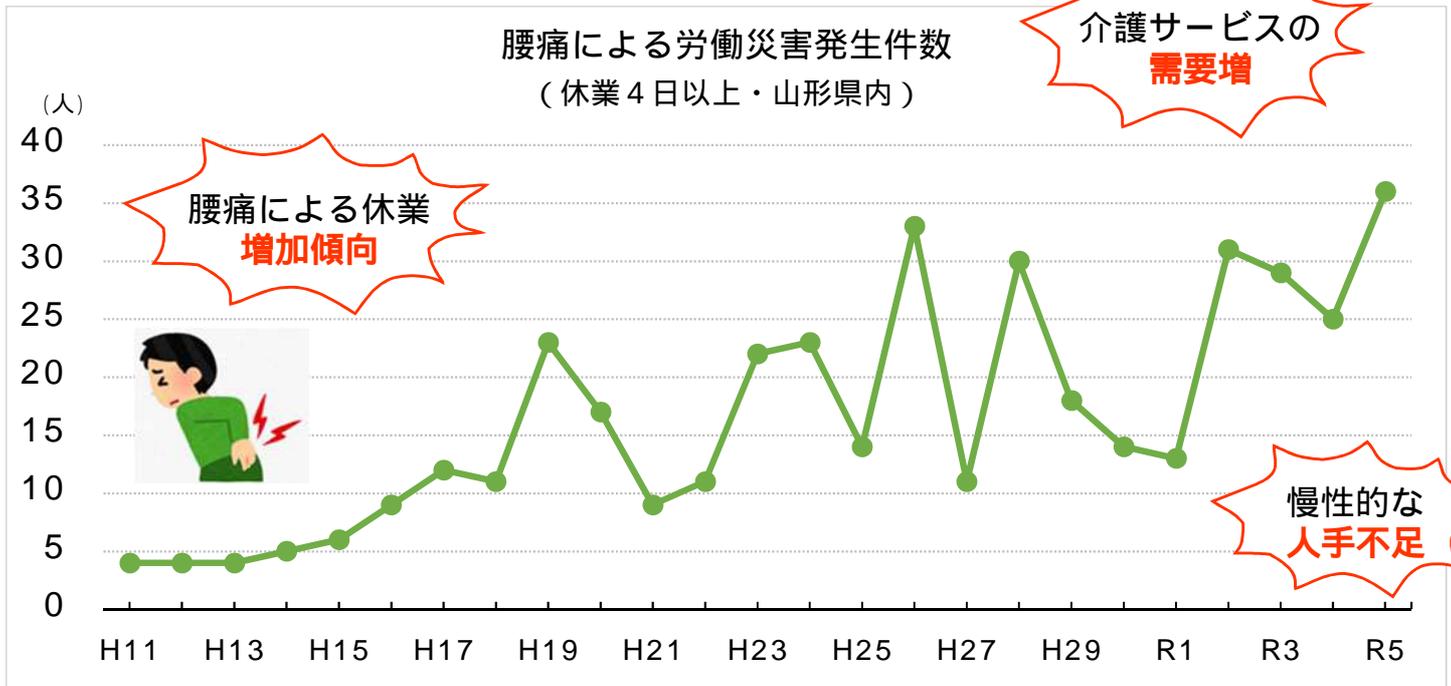


ロコチェック



内閣府ウェブサイト

腰痛対策について



職場における腰痛予防対策指針

人を抱き上げる作業は原則人力では行わせない
福祉用具などを活用する



エイジフレンドリーガイドライン

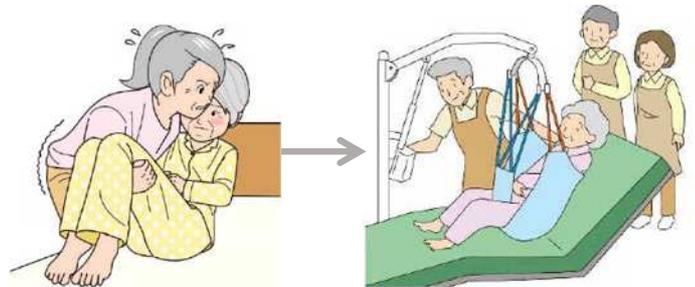
介護労働者の高齢化
50歳以上の労働災害が増加
休業日数の長期化

ノーリフトケア

介護する側・される側双方において安全安心な
持ち上げない・抱え上げないケア

身体の間違った使い方をなくし、対象者の状態に合わせて適切に福祉機器を活用してケアを行う

労働者の負担軽減、腰痛による休業災害の減少、業務の効率化などの効果



高年齢労働者の健康状態や体力の状況を把握し、**高年齢労働者の特性(筋力低下等)を考慮した労働災害対策や安全衛生教育が必要**

山形県介護施設SAFE協議会は、構成員による連携した取組として、行動災害防止の予防に係る啓発資料等の作成等により、安全衛生管理の好事例を山形県内の事業場に水平展開しています。

山形県介護施設SAFE協議会

(福)恩賜財団済生会支部山形県済生会・(福)ユトリア会・(福)みゆき福祉会・(一社)山形県労働基準協会連合会



転倒・腰痛予防の取組
についてはこちら



SAFEコンソーシアム
についてはこちら

